

「ピリピ人への手紙」について

1. 著者：パウロ
2. 宛先：(マケドニアの中心)ピリピにある教会
3. 執筆事情：50年ごろ、パウロはその第二次伝道旅行において、ヨーロッパ最初の教会としてピリピ教会を開拓した(使徒 16 章)。その後約 10 年が経過し、パウロはローマに囚人として滞在することとなった。それを聞きつけたピリピ教会が慰問品を送ることし、それをエパフロデトに委ねた。エパフロデトは慰問品を届けただけでなく、パウロの奉仕を手伝い、働き過ぎて病に掛かった。それがピリピ教会にも伝わり、心配の種となった。しかし、病が癒されたので、彼らの祈りと関心への感謝を表わすために、この手紙が書かれた。
4. 内容：本質的に、これは「感謝の手紙」である。しかし、それ以上に、パウロの主に対するデボーション、伝道者と信徒との愛と助け合い、クリスチャンの主に対する献身、信徒同士的一致などについて、生き活きとして筆致をもって描かれている。
5. 鍵の言葉：「いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。」(4:4)



ピリピ書アウトライン

- 挨拶 1:1-2
- 感謝と祈り 1:3-11
 - 感謝 1:3-5
 - 確信 1:6-8
 - 祈り 1:9-11
- パウロの証し 1:12-26
 - 福音が幽囚を通して拡がった事 1:12-14
 - 異なる動機による「伝道」も喜ぶ 1:15-18
 - 人生を掛けての喜び 1:19-26
- ピリピ教会への諸勧告 1:27-2:18
 - 一致して戦いなさい 1:27-30
 - キリストの心を持ちなさい 2:1-11
 - 自分の救いを完成しなさい 2:12-18
- 同労者への賛辞 2:19-30
 - テモテ 2:19-24
 - エパフロデト 2:25-30
- 律法主義への警告 3:1-4:1
 - 律法主義者に警戒しなさい 3:1-3
 - パウロ自身の生き方の実例 3:4-16
 - わがままな人々を警戒しなさい 3:16-4:1
- 結びの諸勧告 4:2-9
 - 指導者よ、一致しなさい 4:2-3

- 喜び、祈りなさい 4:4-7
- 善と美を求めなさい 4:8-9
- プレゼントへの感謝 4:10-20
 - 感謝と満足を知るという証 4:10-13
 - ピリピ教会の愛への感謝 4:14-16
 - 神の祝福への確信 4:17-20
- 挨拶と祝祷 4:21-23

パウロの生涯と手紙

年代(AD)	主な出来事	手紙
30	十字架と復活	
32頃	サウロ、教会を迫害	
34頃	回心	
36/37	エルサレム訪問	
46-48	第一次伝道旅行	
48	エルサレム会議	ガラテヤ
49-51	<u>第二次伝道旅行</u>	1、2テサロニケ
52-56	第三次伝道旅行	両コリント、ローマ
56-58	カイザリヤで幽囚	
59-61	<u>ローマで幽囚</u>	ピレモン、コロサイ、エペソ、 <u>ピリピ</u>
62頃	自由な伝道活動	1テモテ、テトス
66-67	ローマで幽囚・殉教	2テモテ